

光環境の測定のレポートについて

今回は、全体的に、音環境のレポートよりできが悪かったようです。課題が重なって大変かもしれませんが、上手に調整して、段取りを考えましょう。特に、考察のところへ辿り着くのがやっと、というレポートが多く、考察のところで十分時間がとれていないように思いました。

- 1) はじめに、もしくは目的のところも、もう少し詳しく書きましょう。
- 2) 繰り返しになりますが、他人が読んで読みやすいレポート、追試が可能なレポートの作成を心がけましょう。普通の人には、前から順番にレポートを読んでいくものです。
- 3) 測定点を表す平面図には方位を入れましょう。昼光照明の実験では、どちらから光が入ってくるのかということは、非常に重要です。また、開口部（特に窓）の状態が不明な平面図もありました。さらに、平面図中の「1」などが測定点の位置を示していると明記がないレポートも見られました。
- 4) 図や表の見方についても、説明を加えてください。
- 5) レポート全体の中で、図表、文字の配置が適切になるように努力してください。大きな空白はもったいないことです。
- 6) 表を作る際には、罫線にメリハリをつけると読みやすくなります。太さを変える、点線を使う、二重線を使うなどするだけでも、随分と見やすくなります。
- 7) 照度分布や昼光率分布の図と、測定点を示す平面図との関係を明記していないレポートが多く見られました。対応しているのか、否かを明記しましょう。
- 8) 単位を忘れずに。正しい単位を。
- 9) 考察では、いろいろなものを比較してみましょう。差があるのか、ないのか。あるとすれば、どのように違うのか。なぜ、そのような差ができると推測できるのか。
- 10) 窓からの距離と昼光率の関係は、何かなかったですでしょうか。人工照明と昼光照明の照度分布との比較はどうでしょうか。
- 11) 参考文献や注の付け方を工夫^{注)}しましょう。
- 12) 基準などの出典を明記しましょう。どの図を見て、どう判断したのか明記しましょう。
- 13) 「感じる」のは、主観。考察ではない。

注) このように肩文字（上付き文字）を利用しましょう。→レポートの書き方の本は持っていますか？